

先進農業者と連携した普及活動の事例(1)

トマトのハイワイヤー誘引技術の開発と普及 (栃木県)

- オランダで普及しているハイワイヤー栽培を日本で初めて土耕栽培で導入した先進農業者と連携。
- ハイワイヤー栽培による越冬作型の技術を確立し、地域に普及。
- 作型前進化により単価が2割以上アップ。(単価277円/kg(H13)→338円/kg(H14))

(連携体制)

下都賀農業振興事務所経営普及部(普及センター)、県農業試験場、先進農業者、JA

(普及組織の取組)

- ・実証ほを設置し、農業試験場等と連携して越冬作型を確立。現地検討会や展示ほの設置により地域に普及。(導入面積 2.9ha(H14)→14 ha (H24))
- ・誘引方法の比較試験により、高軒高ハウスに適した誘引方法を検討。
- ・併せて高所作業台車の試作・検討を、関係機関と連携して実施。



越冬作型の栽培状況



高所作業台車による誘引作業

山ぶどう技術「大野式下垂仕立法」を普及 (岩手県)

- 山ぶどうの先進農業者が開発した独自技術「大野式下垂仕立法」について、先進農家の協力の下でマニュアル化。
- マニュアルに基づく技術指導により、久慈地域の収量が約3割向上。(収量:101kg/10a(H17)→130kg/10a(H24))。

(連携体制)

久慈農業改良普及センター、先進農業者、久慈地方ヤマブドウ振興協議会

(普及組織の取組)

- ・先進農業者の全面的な技術提供により、「久慈地方ヤマブドウ栽培マニュアル」に技術を反映。
- ・また、実証試験を行うことで、他地域への技術普及を推進中。
- ・マニュアルに基づき、地域の農業者に技術指導を実施。



山ぶどう



現地検討会

「花の匠」制度によるコギク産地の活性化 (茨城県)

- 栽培経験20年以上の先進農業者を「花の匠」に認定し、この「花の匠」と連携して新規生産者を確保・育成する制度を整備し、育成を行った。
(新規生産者数 0人(H18)→17人(H23))
- 育成の結果、共選販売額が増加した(H18→H23で118%、うち新規生産者はH23の13.3%を占める)。

(連携体制)

県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター、花の匠(先進農業者)、JA茨城中央花き部会(生産者)、JA茨城中央、笠間市、JA全農いばらき

(普及組織の取組)

- ・制度の立案、明文化等で「花の匠」活動を支援するとともに、「花の匠」の優れた技術を「花の匠栽培マニュアル」として整備し、新規生産者へ技術伝承を図った。
- ・既存生産者に対しても、マニュアルに基づく技術の統一を図り、切り花の高品質化を支援した。



新規生産者募集説明



花の匠による技術指導